

令和3年度 富山県立氷見高等学校学校経営計画

1 学校教育目標

- ・ 知性を磨き、社会の進展に対応できる力を育てる。
- ・ 自他尊重の精神と情操豊かな心を育てる。
- ・ 健全な心身と未来を拓くたくましい力を育てる。

2 学校の特徴

- ・ 5学科各学年6クラスの総合制高校として魅力ある教育活動が展開できるよう、各学科の特性や生徒の実態等を踏まえ、一人ひとりの自己実現の達成をめざした教育活動を推進しています。
- ・ 地域との結びつきがきわめて強い氷見市で唯一の高校です。生徒の気質は明るく素直で、学習や部活動、生徒会活動をはじめ学校生活全般にわたって、ひたむきに一所懸命に取り組む校風があります。
- ・ 普通科では、ほとんどの生徒が国公立大学を主とした四年制大学への進学を目指しており、2年次より文理探究コース、理系、文系の類型別授業を編成しています。基礎重視の授業と個別面談をもとに、生徒個々の興味・関心や進路希望等に応じた学習活動の充実に取り組んでいます。
- ・ 専門学科は、農業科学科(20名)・海洋科学科(20名)、ビジネス科(40名)、生活福祉科(40名)の3学級で構成しており、基礎学力の向上を重視するとともに、体験的学習や資格取得などを通して、進路実現に向けた知識・技術の習得にも取り組んでいます。
- ・ 令和2年度に文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」事業特例校の指定を受け、1学年の「総合的な探究の時間」を代替えし、新たに設定した学校設定科目「未来講座 HIMI 学」では、氷見を中心とするフィールドワークを取り入れて地域調査や研究を行うことで、知識や体験を増やし、物事を探究する姿勢や学ぶ力を育成する課題解決型の探究学習を実践しています。さらに今年度2学年普通科では、学校設定科目「人間探究基礎・数理探究基礎」及び「シチズンシップ」において、1年次の活動を下地に地域課題を自立して設定し、方策をまとめて発信する取り組みを行います。また、進路実現をサポートする「キャリア教育」の推進、各学科の枠を越えて将来への広い視野のために科目選択ができる「総合選択制」の導入など、特色ある教育活動を推進しています。

3 学校の現状と課題

本校では『文武両道』の校風を大切に、学習と部活動の両立に努めています。部活動では、平成29年度の選抜大会、平成30年度の選手権大会・国民体育大会のすべてにおいて、全国制覇を果たした男子ハンドボール部の活躍をはじめとして、自転車競技部やその他多くの運動部、文化部が輝かしい成果を上げています。一方、生徒の学習意欲や進路意識の多様化が進む中、学校全体として学習指導及び進路指導体制を明確にし、生徒の学習意欲の向上を図ることが一層求められています。また、生活面においては、生徒の社会性や規範意識を醸成し、家庭や地域との連携に根ざした信頼される学校づくりを進める必要があります。

以上のことを踏まえ、本校では、次の3つの観点から学校経営に係る様々な課題に取り組んでいきます。

- (1) 知性の向上（生徒の活動として、基礎・基本の定着と個々の自主的学習態度の育成）
（教員の活動として、「主体的・対話的で深い学び」への準備と実践）
- (2) 品性の向上（基本的生活習慣の確立と自律意識及び自己有用感の育成）
- (3) 信頼される学校づくり（家庭や地域とのよりよい連携の推進）

(様式2)

4 学校教育計画

項目		目標・方針及び計画	
1	学習活動	目標	<p>① 生徒の学習意欲を高め、自主的に学習する態度を確立することにより、生徒の学力の向上を図る。</p> <p>② 生徒の実態に応じた学習内容の準備や指導方法を工夫するために、教員の実践的な教科指導力の向上を図る。</p>
	重点1①②	計画	<p>① <u>生徒の実態調査や面接等によって家庭学習の実態把握に努めながら、学習意欲を引き出す授業改善や基礎基本を定着する小テスト等の実施によって、自主的な学習習慣の確立を図る。</u></p> <p>② <u>各学科の特色を生かした学習活動を推進し、入学試験に対応できる学力の養成や資格取得による体験的・実践的な学習を重視する。</u></p> <p>③ 生徒の実態や学習内容を考慮したシラバスを作成し、「主体的・対話的で深い学び」の実践を行い授業の充実を図る。また、大学入学者選抜への対応を学校全体で進めていく。具体的には、<u>各教科の研修体制を確立し、互研授業の実施及び教科部会における研修、独自の試作教材の活用などを取り入れることで授業の改善を図り、生徒の主体的な学習の取り組みを支援する。また、ICT教育推進委員会を設け、ICT機器を活用した授業の実践事例を積み重ねつつ、校内外の研修を通して新たな活用方法に関する知見を得て、今後の授業開発に活かす。一人一台タブレット端末の授業への活用に積極的に取り組む。</u></p> <p>④ <u>氷見市と連携協力に関する包括協定を結んでおり、生徒が市職員や地域おこし協力隊、地域人材、企業および機関等との協働的な取り組みにおいて、地域課題を理解する学習や、それらの課題の解決に向けた探究活動を支援する。また、この取り組みを通して、地域人材を育成するカリキュラム開発と実践を行い、地域創生に主体的に携わる人材の育成を図る。</u></p>
2	学校生活	目標	<p>① 基本的な生活習慣を自主的に身に付けるとともに、社会的責任と役割を自覚して、自律した行動ができる人間に育てる。</p> <p>② 心身の健康保持・増進に関する理解と関心を深め、自己有用感を持って有意義な学校生活を営む態度を育成する。</p> <p>③ 環境への配慮の意識や美化意識の向上を図り実践する態度を養う。</p>
	重点2①	計画	<p>① <u>県下一斉に実施される「さわやか運動」や本校の「氷高さわやかディ」を通じた挨拶の励行や遅刻防止、交通・乗車マナーを守ることや服装を整えることなどの基本的な生活習慣を、校風委員による呼びかけ等、生徒相互のチェック機能を働かせながら、身に付けさせる。</u></p> <p>② <u>「安心して過ごせる氷見高校社会」をキーワードとして、様々な活動を展開する。いじめ撲滅や人間関係に関する悩み、問題行動を早期に把握し、各学年や保健厚生部と連携し、生徒との信頼関係に基づく対応を推進する。</u></p> <p>③ 生徒の心身不調の原因を早期に発見し、スクールカウンセラーや巡回指導員等との相談及び各学年や保護者等とも適切に連携を図り対応する。</p> <p>④ <u>歯科治療率アップへの取り組みを通して、健康を大切にする意識の高揚を目指す。</u></p>
	重点2②		
	重点2③		

(様式3)

5 今年度の重点課題 (学校アクションプラン)

令和3年度 氷見高等学校アクションプラン - 1の1 -																																					
重点項目	学習活動 (生徒の主体的な学び)																																				
重点課題	授業及び家庭学習への意欲の醸成																																				
現 状	<p>①【家庭学習時間】</p> <p>本校では、1学期と2学期の期末考査中の学習時間調査を全学年全学科の生徒を対象に実施している。過去3年間の結果を下表に示す。昨年度の結果は過去2年前よりはかなり上回っており、考査期間中は学習する習慣が定着しつつあるともみえる。</p> <table border="1"><thead><tr><th>学 科</th><th colspan="2">普通科</th><th colspan="2">専門学科</th></tr><tr><th>2学期末考査期間の学習時間</th><th>平日2時間以上 (%)</th><th>休日3時間以上 (%)</th><th>平日2時間以上 (%)</th><th>休日3時間以上 (%)</th></tr></thead><tbody><tr><td>平成30年度</td><td>73</td><td>73</td><td>40</td><td>34</td></tr><tr><td>令和元年度</td><td>68</td><td>64</td><td>36</td><td>25</td></tr><tr><td>令和2年度</td><td>81</td><td>80</td><td>52</td><td>53</td></tr></tbody></table> <p>しかし、平常授業期間の予習復習の現状を見ると、家庭学習時間は十分とはいえない。</p> <p>②【専門学科検定合格】</p> <p>専門学科では、教科の学習に加え、専門性を高める各種検定の取得を重視する指導を行っている。昨年度の実績は下表の通りとなった。</p> <table border="1"><tbody><tr><td>農業科学科</td><td>卒業時に検定取得平均8.1種目</td></tr><tr><td>海洋科学科</td><td>食品技能検定Ⅰ類80%および水産海洋技術検定合格率60%</td></tr><tr><td>ビジネス科</td><td>卒業時に全商検定1級合格のべ125件</td></tr><tr><td>生活福祉科</td><td>家庭科技術検定1級合格者のべ53名</td></tr></tbody></table> <p>昨年度はどの学科も目標値を達成することができているが、生徒が異なるため、今年も昨年度と同じ目標値を設定し、全学年で積極的に検定に挑戦させたい。</p>				学 科	普通科		専門学科		2学期末考査期間の学習時間	平日2時間以上 (%)	休日3時間以上 (%)	平日2時間以上 (%)	休日3時間以上 (%)	平成30年度	73	73	40	34	令和元年度	68	64	36	25	令和2年度	81	80	52	53	農業科学科	卒業時に検定取得平均8.1種目	海洋科学科	食品技能検定Ⅰ類80%および水産海洋技術検定合格率60%	ビジネス科	卒業時に全商検定1級合格のべ125件	生活福祉科	家庭科技術検定1級合格者のべ53名
学 科	普通科		専門学科																																		
2学期末考査期間の学習時間	平日2時間以上 (%)	休日3時間以上 (%)	平日2時間以上 (%)	休日3時間以上 (%)																																	
平成30年度	73	73	40	34																																	
令和元年度	68	64	36	25																																	
令和2年度	81	80	52	53																																	
農業科学科	卒業時に検定取得平均8.1種目																																				
海洋科学科	食品技能検定Ⅰ類80%および水産海洋技術検定合格率60%																																				
ビジネス科	卒業時に全商検定1級合格のべ125件																																				
生活福祉科	家庭科技術検定1級合格者のべ53名																																				
達成目標	① 定期考査1週間前からの家庭学習の時間 普通科 平日2時間以上 休日3時間以上 専門学科 平日1時間以上 休日2時間以上 いずれも70%以上		② 専門学科検定合格状況 (農)卒業時に取得検定平均7種目以上 (海)食品技能検定第Ⅰ類、水産海洋技術検定の合格者60%以上 (ビ)卒業時、全商検定1級合格100件以上 (生)家庭科技術検定1級合格者50名以上																																		
方 策	<ul style="list-style-type: none">今年度は調査期間を考査中に限らず、考査1週間前から広げることで、日常的な家庭学習の必要性を生徒に意識させ、学習習慣を徐々に身につけさせる。担任はアンケート調査や個人面接等で生徒の実態把握に努め、生活リズムの改善や各自の進路目標達成に向けての学習意欲の向上を促す。授業中にスモールステップでの小テストなどを重ねることで、予習の習慣を定着させるとともに、学習による達成感を得させる契機とする。年2回実施している互見授業週間において、ICTの活用や「主体的・対話的で深い学び」につながる授業改善の研修を行い、生徒の主体的な学びを引き出す工夫を全教員で行っていく。																																				

(評価基準 A : 達成した B : ほぼ達成した C : あまり達成しなかった D : 達成しなかった)

令和3年度 氷見高等学校アクションプラン - 1の2 -

重点項目	学習活動 (教科実践 教員の活動)	
重点課題	ICT活用による学習・生活指導力の向上と地域協働による学びの魅力化	
現 状	<p>【ICT活用について】</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染拡大防止の臨時休校に伴い、教育クラウドの利用が急速に進められ、本校はG suite for educationをプラットフォームとして、昨年度よりGoogle Classroomの運用を始めた。オンラインによる授業やホームルームの実施、家庭学習のサポート等、これまでとは異なるツールによって生徒への指導ができるよう教員のICTリテラシー向上が急務となっている。 今年度は生徒一人一台のタブレット端末が配備される予定であり、その効果的な運用が求められる。 <p>【地域協働による学びについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> 本校は、令和2年度文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」事業特例校及び富山県教育委員会「未来人材育成事業」の指定を受けている。氷見市「ひみ教育魅力化会議」等、関係機関及び民間事業者の多くの協力を得て、令和2年度「未来講座HIMI学」にのべ63人の外部人材の協力を得て、新学習指導要領が目指す学びのプロセスのうち「学び方を学ぶ」「生きる力を育む」探究学習を実施することができた。生徒の講座に対する満足度は90%と高く、今年度は1学年の「未来講座HIMI学」に加え、2学年普通科での「人間探究基礎・数理探究基礎」及び「シチズンシップ」でもその取り組みを引き継ぐ。探究学習の学びの価値を校内外で共有しながら周知を図るとともに、カリキュラム構成や評価方法等も新学習指導要領が目指す方向性に鑑み、磨き上げていく必要がある。 	
達成目標	① 授業担当者が、主体的に教育クラウドを利用し、オンライン授業やWebテスト等による指導ができる。 ・・・100%	② 授業で「主体的で対話的な深い学び」の実現に向けて ICT を活用する方法を教員が研究し実践する。 (研究・実践した教員割合)・・・70%
	③ 「地域協働学習」を通して「地域と一体になった学校づくり」を推進し地域との協働体制の確立に努める。生徒が地域をフィールドに学び、地域の方々と共に課題を発見したり解決に向けて努力したりすることで地域づくりに関わる。 (取り組みに対する、生徒および地域の協力者の満足度)・・・80%	④ 地域における「地域協働学習」の認知度を高め、相互にとって価値のある取り組みを一層広げるよう努力する。
方 策	<p>① オンラインでの授業にも対応できるよう教員の教育クラウド利用研修会を実施する。</p> <p>② 互研授業週間にICTを活用した研究授業を計画し、研究授業の参観によってすべての教員間で授業展開の研究を進める。</p> <p>③ 地域学習支援員(氷見市地域おこし協力隊)を中心に氷見市地域振興課の協力を仰ぎ、「未来講座HIMI学」及び「人間探究基礎・数理探究基礎」「シチズンシップ」においても外部人材との連携を密にする。</p> <p>④ 「地域協働学習」を柱に「総合的な探究の時間」の指導計画をまとめ、趣旨等共通理解のもと、探究学習が進められるよう教員も協働し学習する組織を実現する。</p>	

(評価基準 A : 達成した B : ほぼ達成した C : あまり達成しなかった D : 達成しなかった)

令和3年度 氷見高等学校アクションプラン - 2 -

重点項目	学校生活（心身ともに健康で充実した高校生活）		
重点課題	「誇りに思える氷見高校社会」「安心して過ごせる氷見高校社会」の構築に向けての社会観と健康を大切にす意識の育成		
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・さわやかな挨拶を交し合える学校を目指し、定期的に「あいさつ運動」を行っているが、挨拶の価値を心から意識して行う生徒はまだ少ない。また、制服の着こなしや校内における携帯電話の取り扱いに関しても、一部には意識の低い生徒が見られる。「誇りに思える氷見高校社会」を創造することで、自己有用感を持って学校生活を送ることができるようにする必要がある。 ・人間関係における不安や悩みは、常に注視すべきことである。「安心して過ごせる氷見高校社会」を生徒と一体となって創造するという視点で、向上に邁進する学校生活を安定して送ることができるようにする必要がある。 ・一般的に高校へ入学すると、部活動を優先してしまい、健康管理が疎かになる傾向があるため、自立的な健康管理の意識付けを行う必要がある。特に、歯科検診では、本人が不調を感じていない場合に受診せずに済ませてしまい、治療率が向上しない現状がある。 		
達成目標	① 挨拶・服装・交通マナー・携帯電話の取り扱い等の規範意識の向上	② いじめ撲滅等、「安心して過ごせる氷見高校社会」に関する意識の向上	③ 歯科治療率アップのための働きかけ
	生徒意識調査における挨拶や服装等に係る意識率 95%以上	生徒意識調査における「安心して過ごせる氷見高校社会」の創造に対する意識率 100%	歯科治療率 50%以上
方 策	<p>① 「誇りに思える氷見高校社会」をキーワードに、県下一斉による年1回の「さわやか運動」、本校独自による各学期初めの「氷高さわやかウィーク」や年6回の「氷高さわやかデイ」の取り組みにおいて、挨拶の意義を事前指導し、挨拶の価値を意識させながら実施する。また、校風委員会及び交通委員会等の委員会活動として取り組ませることで、生徒の主体性に基づき、「挨拶の励行」「交通安全（自転車乗車マナー等）」「校内における携帯電話の取り扱いについて」など社会的マナーの向上に努める。</p> <p>② 「安心して過ごせる氷見高校社会」をキーワードとして、様々な活動を展開する。具体的には、生徒集会等で「命の尊重」を訴えるとともに、学期ごとを基本にアンケートを実施することで、人間関係に関する悩みや問題行動を早期に把握する。さらに、得た情報をもとに、迅速かつ周到に対応する体制を構築する。</p>		<p>③ ・保護者会の際に歯科治療カードを再度配布し、長期休業中などに治療するように促す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動の保護者会などにおいても、保護者から生徒に声をかけていただくようお願いする。 ・治療を要する永久歯があるにもかかわらず、長期休業中に治療しない生徒には、面談などを通して理由を確認し治療を促す。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成しなかった D:達成しなかった)

令和3年度 氷見高等学校アクションプラン - 3 -

重点項目	進路支援（生徒の進路実現と進路指導）	
重点課題	進路意識・知識の強化と組織的な進路指導力向上の取り組み	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・進路実現の過程は複雑であり、職業や上級学校についての理解度や、進路決定の方策（入学試験、就職試験など）に対する基礎的、基本的な知識量に課題がある。進路学習等、進路実現に向けた生徒の主体的な活動ペースを向上させる必要がある。 ・1～2学年の全体的な進路学習の機会は、タイトなスケジュールの中で限られている。生徒自身が進路について継続的に考え、職業や「なりたい自分」について話をする雰囲気醸成する必要がある。高い志を持って進路実現に挑戦する生徒を育成する体制強化が重要である。 ・3学年は、9月の就職試験から3月の国公立大学後期日程まで7か月にわたる多様な受験を指導・サポートする。5学科それぞれの特性と個々の生徒が培ってきた様々な学力が、進路選択と受験にメリットとなるよう、学年、教科、各部署との連携をより密にする必要がある。 ・面談技術や受験情報の収集・提示方法、保護者との連携など、進路指導のノウハウを蓄積・向上させる体制の充実を図る必要がある。 	
達成目標	① 進路実現の手立てについて、生徒の理解と主体的な行動の促進	② 進路関連行事や個人面接等の充実と進路意識の高揚
	・「進路とその実現過程を考え、主体的に行動している」と自己評価する生徒の割合 1学年＝60%以上、2学年＝75%以上	・生徒が感じる面接等の満足度 70%以上 ・生徒進路委員会の活動 8回以上
	③ 進路希望の実現 （第3学年 進学希望者）	④ 進路希望の実現 （第3学年 就職希望者）
	・3年9月進路希望調査（校種）に対し 普通科：第一志望達成率 70% 専門学科：第一志望達成率 80%	・就職希望者の就職内定率 100%
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア学習と進路の手立てを知る機会を設けるなど、各学年に応じた計画的な進路指導を行うことで、早期に自己の適性の理解及び将来設計を具体化させ、意欲的に学習ができるように指導する。 ・進路に関するホームルームを実施し、より効果的な系統指導プログラムを作成して、学年全体での計画的な指導体制の共有化を図る（進路統一ホームルームを年3回程度実施） ・各学年と連携し、3年間を見通した進路指導を行う。 1年次・・・「進路講話」「職業人から学ぶ」「文理選択」「進路ガイダンス」「卒業生と語る会」他 2年次・・・「大学等見学」「修学旅行（班別研修）」「学部学科の研究」「卒業生と語る会」「インターンシップ」他 3年次・・・「進路ガイダンス」「オープンキャンパス」「就職説明会」「企業見学」「進学検討会」他 ・「面接重点期間」をおおむね学期ごとに設定し、職員室等で複数教員で情報共有を図る体制を推奨、実践する。 ・学力と進路情報について校内ネットワークを利用し、教員間で共有する。また、Google classroomを使用して、生徒への情報提供やアンケート調査等を行う。 ・生徒が主体的に進路情報に触れ、進路意識の高揚につながる取り組みとして生徒による進路委員会の活動を推進する。 	

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：あまり達成しなかった D：達成しなかった）

令和3年度 氷見高等学校アクションプラン - 4 -

重点項目	特別活動		
重点課題	コロナ禍における学校行事・部活動及び地域連携活動の活性化		
現 状	<p>・学校行事は、前年度、コロナ禍で縮小されたため、生徒の満足度は高くなかった。今年度は、改善案も取り入れて生徒会執行部を中心にコロナ禍でも取り組める企画・運営を行っている。全校生徒の参加意識や達成感を高められるよう、生徒の意見を取り入れながら、生徒主体の行事にする必要がある。</p> <p>・部活動は、全校生徒の約90%が加入している。コロナ禍での部活動の制限、休養日週2日制の中、限られた時間を有効活用するために、明確な活動計画と集中した時間活用の工夫と生徒が前向きになれるような支援が求められる。</p> <p>・ボランティア活動では、前年度、地域の美化活動に限定されていたが、ボランティア推進委員会を中心に家庭クラブやJRC部等とも連携し、身近で今できるボランティア活動に参加する生徒を増やしていく必要がある。</p>		
達成目標	① 各学校行事の精選と内容の充実	② 部活動に参加することで自己肯定感を高める生徒の増加	③ SDG sに基づくボランティア活動への参加意識の高揚
	各行事に対する生徒の満足度 80%以上	3学年生徒の満足度 80%以上	美化活動、環境保全活動、募金活動への全校生徒の意欲的参加
方 策	<p>① 各行事の前に各種委員会の開催や生徒会便りの発行を行い、行事についての実施要項等を周知していく。また、行事後にアンケートを行うことで、生徒の達成感が高まるよう改善点を加え、次年度に活かすよう工夫する。</p> <p>② 部活動で人間性の向上を図ることの大切さを全校生徒に意識させつつ、メリハリのある取り組みを促す。3年生に、アンケートで部活動に対する意識調査を行い、結果を各部顧問に知らせ、前向きになれるよう支援活動に生かす。</p> <p>③ ボランティア推進委員会を中心に SDG s を意識したボランティア活動のポスターの掲示や放送などを通し、全校生徒に積極的な参加を呼びかけるとともに、ボランティア後の記録や感想を残すなど振り返りの機会を設ける。</p>		

(評価基準A：達成した B：ほぼ達成した C：あまり達成しなかった D：達成しなかった)

令和3年度 氷見高等学校アクションプラン - 5 -

重点項目	その他（情報発信及び家庭との連携）	
重点課題	適切な情報発信及び保護者との情報共有の推進	
現 状	<p>・家庭との連携を図るために、P T A活動への積極的な参加を呼びかけている。P T A総会への参加保護者は、平成 28 年に総会後の学年懇談会を実施して以来増えており、平成 29 年度の保護者の参加率は、38%（6 年前の 2.17 倍）、平成 30 年度は 38.5%、令和元年度は 34.2%（前年より 4.3%減）であった。令和 2 年度はコロナ禍のため中止となった。進路に関する P T A研修会（第 3 学年）への保護者の参加率は令和元年度 60.7%（一昨年より 10.7%減）。令和 2 年度の 3 年普通科は 80.5%、専門学科も同様の 80.5%となり前年より 19.8 ポイントの増となった。コロナ禍にあっても P T A研修会のニーズは高く、参加率は増加している。そこで、P T A研修会をはじめとする P T A行事について、十分な新型コロナウイルス感染防止対策をとったうえで実施していかなければならない。</p> <p>・学校と保護者との情報共有手段として、「氷高ほっとメール」（教育情報メール）の登録を毎年保護者に呼びかけている。保護者の「氷高ほっとメール」に対する理解は深まり、近年の登録率は高い水準で安定している。昨年度は 95.3%であった。</p>	
達成目標	① コロナ禍における P T A活動の実施及び不参加者への対応	② 教育情報メール「氷高ほっとメール」の保護者登録率の向上
	<ul style="list-style-type: none"> ・安心して参加できる新型コロナウイルス感染防止対策の実施。 ・感染状況を考慮した、書面やリモートなど安全な P T A活動の実施。 ・不参加者への周知の工夫。 	<ul style="list-style-type: none"> ・97%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・行事の開催案内の配布、ホームページ、メールでの情報配信を行い、P T A活動への参加を促す。 ・保護者の関心が高い P T A活動においても、新型コロナウイルス感染状況によっては参加しにくい場合もある。感染防止対策をしっかりととり、安心して参加してもらえるようにする。 ・感染状況を考慮して、P T A役員と協議のうえ、開催形式について検討する。 ・参加できなかった P T Aへ資料配付だけでなく、活動報告、意見、質問事項などを追加し、今後の P T A活動に理解と協力を求める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・合格者説明会や P T A入会式等の機会をとらえ、「氷高ほっとメール」の利用価値が大きいことをしっかり伝え、保護者の登録を促す。 ・入学以降は、特に 1 学期を登録推進期間として引き続き保護者に登録を勧める。 ・「氷高ほっとメール」の登録をしても受信許可の設定がされていないか、アドレスに誤りがある届かない保護者には生徒を通じて案内をする。

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：あまり達成しなかった D：達成しなかった）